WEBで読む「建設通信新聞」
PCで「建設通信新聞」記事検索・メール配信
日経テレコン21／Factiva／G-Search／NewsWatch
⇨http://www.kensetsunews.com/database
工事情報の検索なら「WEB版 建設工事の動き」
⇨http://www.kensetsunews.com/ugoki
ケータイで読む
http://m-kensetsu.jp

THE KENSETSU TSUSHIN SHIMBUN
建設通信新聞
Architectures, Constructions & Engineerings News (Daily)
2010年（平成22年）7月1日（木曜日）（第三種郵便物認可）

夢×技=∞
何時もあなたの街で お会いしている クリハラの技術
電気・情報通信・計装・土木・建築
株式会社 栗原工業設計
〒530-0017 大阪市北区角田町1-1（東阪急ビル）
〒105-0014 東京都港区芝三丁目24-7（芝スクエアビルディング）

デザイン2010
建築記事へのご要望やご意見をお寄せください。
kenchiku@kensetsunews.com

Architecture Front

時に建築と闘う
コントラストが空間に深み

ガラス彫刻家
ニコラス・ワインシュタイン氏

フロアを縦横無尽に走る龍や、シンメトリー空間にカオス（混沌）をもたらすねじれた装飾品など、独創的でユニークな作品を提供してきた米国人ガラス彫刻家のニコラス・ワインシュタイン氏。これまで東南アジアを中心に活躍してきたが、「鉄やコンクリートだけでなく、自然の要素を建築に取り込んでいる」という理由から、日本の建築に強く興味を持ち始めた。時に建築と闘い、建築との新しい空間を生み出すワインシュタイン氏に、建築とアートの関係性や作品に込めた思いを聞いた。

ガラスに興味を持ったのは偶然だった。大学を休学してステンドグラスの工房で働き始めたが、あまりにも退屈だったという。「この材料で退屈でないものをつくりたい、と思ったのが仕事を始めるきっかけ」。自由に形を変えられるほか、光を通すなど表現の幅を広げられるガラス作品に魅入られた。

これまでに、大小さまざまな作品が建築空間を彩ってきた。「それぞれの作品は、その建築のためだけにつくったもので、建築と統合された一部分といえる」

当然、建築家とのコラボレーションで作品を創るが、建築に迎合する考えはない。「私の作品に必要なことは、ビルに溶け込むことではない。共感しあうものがありつつも、時に闘うことが必要だ」。アート作品によって生み出されるコントラストが、建築空間に深みを与えることになる。

ノーマン・フォスター氏が設計したシンガポールのカペラホテルで、地下宴会場の円形天吹に「鏡質」な作品を設置した例がある。

上海のホテルロビー。長さ280mにもなる一つなぎの作品　撮影：Michael Weber

シンガポールのカペラホテル宴会場に設置した作品

部屋も天井も円形で、純粋なシンメトリー（左右対称）だったが、設置した作品は、スパイラルシェイプで円形をすいぶんと崩したような形状をしている。「シンメトリーな空間にややカオスの状態が混ざれていない要素を取り入れた。ゆがみによって直接的にコントラストを持たせた」と、正反対の要素を組み込むことで、空間の質が高められることを強調する。

一方、見る人が、作家が期待する反応を示すとは限らない。「いつも期待とおりの反応でなくてもいい。人によって同じように感じるわけではないし、人が期待と異なる反応を示したときこそ、新しい考えが浮かぶ」と話す。

日本に共感、パートナー見つけたい

自然がすべての一部であり、建築の伝統がある。また、高い技術が数多く細部にまで注意が行き届いている。効率性の考えが先行しがちな自然の要素を建築に取り込んでいる。この日本的な考えが、共感を生むと思っている。来日して、目につかないところに属人的なこだわりがあることに気がついた。

日本での仕事の経験はまだ少ないが、日本でのパートナーを見つけて仕事をしたいと考えている。「アジアでは関心を持って受け入れられた。いま、世界で一つだけ仕事をしたい国はどこかを考えると、それは日本だ。日本はユニークな国だから」

ホームページアドレスは、www.nicolaswein.com

式年遷宮に見る保存

建設論評

建物保存については、法隆寺のように当時の建物をそのまま保存し、現在に伝える方法が一般的な考え方であるが、一方で、日本人の知恵として、伊勢神宮に見られるような「式年遷宮」により、弥生建築の技術や素朴な資源の木材という材料を伝承することで、「技術」と「材料」の保存を行う方法も、伝統的な保存の手法として実施されてきている。

どちらが保存にふさわしいか、それはどちらもふさわしいと言えるのであろう。モノそのものを保存することと、伝統や技術といった目に見えない文化を保存すること、どちらも必要不可欠なものであるからだ。

これらを考えると、建物の保存についても、単純に建物を保存することだけではなく、日本の品質を高し続けてきた技術の伝承といったことも、保存としてきちんと認識していく必要があると感じる。

伊勢神宮の式年遷宮では、天武天皇以来、戦乱等を除き20年ごとの建て替えが、今日まで続いている。式年遷宮を採用した理由は、①「弥生建築」という建築様式を保存するため②神道の精神として、常に新たに清浄である必要があるため③大嘗祭、新嘗祭、神嘗祭など、祭祀の意義が再構築されるため④皇宮の遷移に応えて、遷宮が行われたため――と言われている。

また、式年遷宮が20年ごとに行われる理由にも、①宗教的な意味における建物の「清浄さ（常若）」を保つ限度が、20年程度であるための建て替えの技術の伝承を行うためには一生に2回遷宮に携わるという意味において、当時の寿命や実働年数からも20年間隔が適当とされたため③神嘗祭に供される穀物の保存年限が20年であるため――などと伝わっている。

ここで重要なことは、実際に建築に携わる大工が10代で見習いとして働きはじめ、最初の遷宮を中堅として経験し、2回目の遷宮を棟梁として差配することで、技術の伝承がなされていることである。

現在の建設業界では、55歳以上の建設業就業者数が10年前に比べて10万人増加しているのに対し、35歳未満の労働者数は80万人も減少している。明らかに、建設業における老年労働者の割合が増えてきており、産業活力や技術の伝承といった面で問題である。

耐震偽装に見られるように、現在においても、建物の老化は、現代において技術の伝承の欠落や技術力軽視の流れから発生している。

社会経済学者のマックス・ウェーバーは、資本主義ゲームの結果として、「精神のない専門人、心情のない享楽人」の時代が到来することを予言しているが、技術の伝承と伝承を建設業界全体として取り組んでいくことが、そのための新たな方策、新たなプロジェクトのあり方が求められている。

（隆）

より魅力的な都市へ
まちづくりセミナー
20日から東京都防災・建築まちづくりセンター

財団法人東京都防災・建築まちづくりセンターは、東京をより魅力的な都市としていくための「まちづくりフロンティア2010」を開催する。住まいやまちづくりで取り組むべき課題を浮き彫りにするとともに、▽環境▽防災まちづくり▽まち・住まいの再生▽都市の魅力▽歴史的景観と都市の文化――をキーワードに、東京が国際社会の中で活力を持ち続けていくためのヒントを探る。

セミナーは▽環境先進都市を目指して（20日、会場・東京都住宅供給公社）▽次なる場へ（東京都住宅供給公社）▽都市の活性化（10月12日、会場・東京都住宅供給公社）▽都市の魅力を発信する（11月5日、会場・すみだリバーサイドホール）▽都市の記憶を遺す（11月30日、会場・東京都住宅供給公社）――の全5回。各テーマごとに講師が取り組み方策や事例などの紹介を交えながら、講演する。

東京都防災・建築まちづくりセンターのホームページ、または、ファクスによる当日の受講（1日前まで受付け）。参加費は一般3000円、学生や行政職員が1000円となっている。

ICカードの割引
12月31日まで延長

日本電子認証（NDN、田島敏彦社長）は、電子入札用ICカード（電子証明書）「アオサイン・サービス」が最大40％引きとなる「電子入札～電子入札応援キャンペーン」の期間を12月31日まで延長する。

同キャンペーンは、「アオサインサービス」を初めて申込む企業が対象で、有効期間1年から4年までのICカード全種類を有効期間に応じて6000円（割引率40％）から1万円（同20％）割り引く。

ルアプラス・フリーダイヤル0120-714-240。

禁法に合わせて条文の文言などを修正した。

建設工事と測量など「測量業」の登録は、参加資格審査申請書類で行っていても、これまで各発注者が定めていたが、今回、中央公契連の統一様式を作成し、追加した。

これに合わせ、参加資格審査申請書類作成要領準備についても、文言などを修正した。

総合資格（岸隆司代表取締役）は、2級建築士試験・設計製図課題に対応した書籍『平成22年度版　2級建築士試験　設計製図課題集』を7月上旬に全国有名書店で発売する。

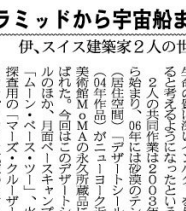
6月9日に試験元より発表された課題「兄弟の二世帯と母が暮らす専用住宅（木造2階建）」を徹底分析。さらに本年度課題5課題と解答例を掲載している。また、原寸大オリジナル解答用紙5枚も収録している。

作図難度が高い「伏図」「矩計図」などの解説も網羅し、より効率的に計画力・作図力を学習することができるように編集されている。

定価3,150円（税込み）、総合資格学院ホームページでも先行予約を受け付けている。

総合資格

「ピラミッドから宇宙船まで」
イタリア文化会館で3日まで開催
伊、スイス建築家2人の世界巡回展


展示構想「マーズ・クルーザー・ヴィラ」を前にヴィットーリ氏（左）

スイス大使館、イタリア文化会館主催の展覧会「ピラミッドから宇宙船まで」が3日まで、東京都千代田区のイタリア文化会館で開かれている。イタリア人建築家のアルトゥーロ・ヴィットーリ氏、スイス人建築家アンドレアス・フォグラー氏が創設したデザインスタジオ「アーキテクチャーアンドヴィジョン」双「宇宙ステーション」や、漢の居住ベースなど多様な建築を世界各国で展示している巡回展の一環だ。

2人は宇宙航空分野の仕事を通じ、自然を尊重し、知性を駆使して技術開発することが生命の質に深いインパクトを与えると考えるようになったという。

2人の共同作業は2003年から始まり、06年には砂漠のテント「居住空間」、「デザートシール（04年作品）」がニューヨーク近代美術館MOMAの永久所蔵品に選ばれた。今回はこのデザートシールのほか、月面ベースキャンプの「ムーン・ベース・ソー」、火星探査用の「マーズ・クルーザー・ワン」、アンアナ航空のファースト・ビジネスクラスデザイン、移動できる居住空間「マーキュリーハウス」などの模型と写真を公開している。

ヴィットーリ氏は、「ムーン・ベース・ソー」は、科学的根拠にもとづいて設計、実際に企画提案しようと考えている。

2人は宇宙飛行士を収容できる研究室にもなる。デザートシールはヨーロッパの宇宙開発会社と一緒に考案した砂漠用のテントだ。現地で空気を入れて簡単に膨らませることができる。砂漠では、昼間と夜間の気温が高く、上が低温の空気を取り込むなどの工夫も施されている。

巡回展は昨年3月のシカゴから始まって、サンフランシスコ、ソウルなどで開催された。来年3月は北京で開く。入場は無料。午前11時から午後6時。

資格申請委任状
の統一様式作成
中央公契連総会

中央公共工事契約制度運用連絡協議会（中央公契連）は、7月1日に施行した改正独占禁止法（独禁法）や建設コンサルタント業務等入札参加資格審査申請書類作成要領準備について、総会資料などを修正した。

通知文や入札契約制度改革の取り組みなど建設関連業の登録制度見直しについて説明した。

10％減192万人対象
厚労省・5月の雇用助成金申請

厚生労働省は6月29日、雇用維持を促すため企業に休業手当を補てんする雇用調整助成金に関し、5月の申請状況を発表した。申請事業所は前月比4・5％減の7万6783カ所、対象被雇用者は10・9％減の192万4038人。対象被雇用保険適用事業所の全月連続で減少した。

都道府県別の対象被雇用者は、最多が愛知の13万6010人。これに東京の12万9855人、大阪の12万7945人、新潟の6万974人が続いた。

◆連載「米国の建築はいま」は休みます

社名変更のお知らせ
信頼と技術で未来を創る
あいホールディングスグループ
株式会社
あい設計
「株式会社塩見設計」は 平成22年7月1日（木）より社名を「株式会社あい設計」に変更し 新たなスタートを切りました
主要都市18拠点のネットワークにより、全国のお客様に確かな技術と豊かな感性を、安定した高品質の"商品"として提供いたします。
本社・支社の所在地、連絡先、資本構成、役員構成等に変更はございません
□ 本社：広島市東区上大須賀町10-16 TEL 082-506-0403 FAX 082-506-0406
□ 支社：札幌、仙台、埼玉、東京、川崎、横浜、新潟、名古屋、大阪、岡山、福山、広島、呉、山口、松山、福岡、大分、鹿児島
■ Ai SEKKEI ■
Integrated Architectural Consultants